

《女川原子力発電所2号機が2024年12月26日に営業運転を再開しました》



女川原子力発電所長
阿部 正信

新年を迎え、地域の皆さまにおかれましては益々ご健勝のことと存じます。

さて、2号機は、2024年12月26日に営業運転を再開しました。営業運転を迎えられましたのも、立地自治体関係者の皆さまをはじめ、地域の皆さまからのご理解、そして安全対策工事に従事いただいた皆さまのご尽力のおかげであり、改めて感謝申し上げます。

このたびの営業運転再開は、東日本大震災からの復興につながるとともに、電力の安定供給やカーボンニュートラルへの貢献の観点からも、社会的に大きな意義があるものと考えております。

今後とも安全・安心を大前提として安定運転に努めるとともに、「安全対策に終わりはしない」という確固たる信念のもと、さらなる安全性の向上に向けた取り組みを着実に進めてまいります。

また、原子力発電所の運営にあたっては、地域の皆さまからのご理解が何よりも重要と考えております。引き続き、当社の取り組みについて分かりやすく丁寧にお伝えし、地域の皆さまから信頼され、地域に貢献する発電所を目指してまいります。

各種検査等の工程が終了し、本格運転へ移行しました

2号機は2024年12月11日に定格熱出力※に到達し、調整運転を行っていましたが、その後、安定した運転状態で各設備の圧力や流量などのデータを記録し、発電所全体が正常に機能していることを総合的に確認する最終検査を実施しました。この検査が終了した後、原子力規制委員会による確認を経て、12月26日16時に原子力規制委員会から「使用前確認証」を交付いただきました。これにより、調整運転の位置づけから本格運転へ移行（営業運転再開）となりました。

※定格熱出力：原子炉設置変更許可で認められている熱出力（原子炉で発生する熱エネルギー）の最大値



使用前確認証を交付いただく様子
(写真右：原子力規制庁 上田首席原子力専門検査官
写真左：阿部女川原子力発電所長)



営業運転再開について報道機関に公開
(報道機関15社25名が参加)

2号機の再稼働プロセスの一部を紹介します



各種訓練
(大規模損壊訓練：8月8日・15日) (シーケンス訓練：8月20～22日・29日)



燃料装荷
(9月3日～9日)



原子炉起動
(10月29日19時00分)



再稼働（発電再開）
(11月15日18時00分)

《第23回東北電力図画コンクールの表彰式を開催しました》

2024年12月22日、第23回東北電力図画コンクールの表彰式を女川町内で開催しました。表彰式には各賞を受賞した37名のうち31名の皆さまに出席いただきました。今回の応募作品総数は4,195点とたくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。

なお、一次審査を通過した200点の作品は、1月16日～23日までは「矢本西市民センター」で、1月25日～2月2日までは「イオンモール石巻」を会場に展示していますので、ぜひご覧ください。



女川町役場生涯学習センターでの表彰式の様子



各賞を受賞された皆さま

《クリスマスドリームコンサートを開催しました》

2024年12月3日・8日に、「クリスマスドリームコンサート」を開催しました。女川原子力発電所地域総合事務所が主催するこのイベントは、クリスマス時期に地域の皆さまや子供たちに音楽や芸術などを楽しんでもらいたいとの思いから、1994年から実施しているもので、今回で31回目を迎えました。

今回のコンサートでは、金管五重奏「ズーラシアンブラス」が、クリスマスにちなんだ曲や参加者からリクエストいただいた曲などを披露しました。会場の女川町まちなか交流館および観光物産交流施設Cottu(石巻市牡鹿地区)には、約360名が来場され、大勢の皆さまに演奏を楽しんでもいただきました。



女川町まちなか交流館でのコンサートの様子



観光物産交流施設Cottuでのコンサートの様子

《発電所周辺の道路清掃を実施しました》

2024年12月13日・16日、発電所員36名が、発電所周辺道路（小屋取～塚浜）のごみや落ち葉を拾い集めました。

今後も地域の一員として環境美化活動に取り組んでまいります。

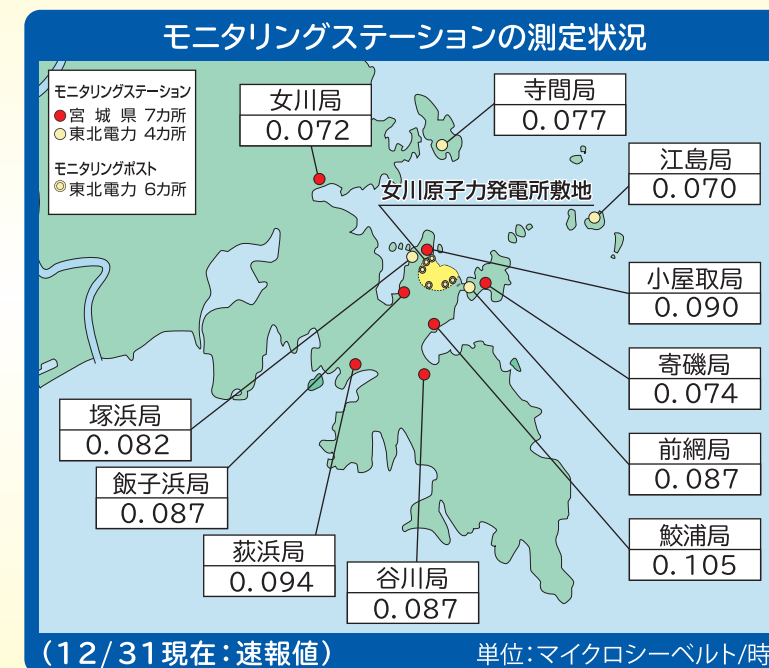


道路清掃の様子

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの2024年12月31日の測定値は、最大で0.046マイクロシーベルト／時程度で安定しており、発電所の運転による有意な変化はなく、環境への影響はありません。



(参考) モニタリングポストの最小値と最大値※3

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	
2011年3月11日	0.027～0.064
〈地震発生後最大値〉	
2011年3月13日	1.8～21※4
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉	
2012年4月1日	0.063～0.098
2013年4月1日	0.055～0.076
2022年4月1日	0.033～0.045
2023年4月1日	0.034～0.046
2024年12月1日	0.033～0.045
2024年12月31日	0.034～0.046

単位: マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02～0.04マイクロシーベルト／時程度低い測定値となっています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

